

2023年4月
狛江市議選

市民生活第一・市民が主人公の市政へ

16年ぶりの新人2候補・5人の市議団をめざします

日本共産党

狛江市議選の候補者を発表

日本共産党調布狛江府中地区委員会は10月、2023年4月におこなわれる狛江市議会議員選挙に擁立する5人の候補者(現職3人、新人2人)を発表しました。市民生活第一の市政、市民が主人公の市政、憲法と平和都市宣言を生かす市政への転換へ、そして市民派市政復活の第一歩へ、5人全員当選に全力をつくします。



現3期 ● 党市議団副幹事長

岡村しん

この4年間、令和元年東日本台風やコロナ禍により、みなさんの命・健康・暮らしがおびやかされてきました。災害対策では、党議員団として市に要求して、強力な排水ポンプの設置や、自動起動機能付き防災ラジオを実現してきました。コロナ対策では、保健所の復活や検査の充実とともに、コロナ感染やワクチンの後遺症への相談窓口の設置を市に求めてきました。引き続き、皆さんのいのちと健康、くらしをまもっていくために全力でがんばります。



現4期 ● 党市議団長

宮坂良子

私は「切実な市民の方の願いに少しでも応えたい」とこの思いで「生活なんでも相談」を15年間、毎月とりくんできました。「給料が上がる」「出産費用が高い」「年金は下がり、医療費が2倍になり痛い」など、切実な声が寄せられています。安心の介護保険や就学援助の拡充、学校給食費の無償化、国保税の引下げなど議会で求めてきました。岸田政権がねらう憲法9条改悪は許しません。暮らし、平和を脅かす政治から、安心して暮らし続けられ、人権が守られる政治への転換めざしてがんばります。



現6期 ● 党市議団幹事長

西村あつ子

私は1期目の時から、子どもの医療費無料化の拡充を繰り返し求めてきました。今期は小学生の医療費無料化の所得制限撤廃と、低所得者層の高校生の医療費無料化を要求し、実現することができました。またコロナの長期化で、毎議会市民生活支援について取り上げる中、市独自の地域経済持続支援金や大学生等への給付金や市民食堂での学割等を実現することができました。これからもみなさんの声を議会に届けるためにがんばります。



新人 ● 党狛江市気候危機打開・SGDsまちづくり推進室長

重国たけし

市民のみなさんとともに、狛江市民の暮らしと生業(なりわい)を守り、住みよい狛江・市民(ひと)輝く狛江・市民の生きづらさに寄り添う狛江市政の実現に全力を尽くします。

そのためには、現在の誰一人として取り残されることなく、気候危機打開、核兵器廃絶、原発ゼロ、ジェンダー平等など未来世代への責任を果たす持続可能な社会と地域の実現追求が大切であり、市民が主役の市民派市政の復活が欠かせません。

狛江市政の民主的発展のため、「地球規模で考え、足元から実践する」(Think globally, act locally)仕事を私にやらせてください。みなさんの声を議会に届けるためにがんばります。



新人 ● 党狛江市生活教育相談室長

荒木てつ

私は狛江で育ち、教師33年、子どもの自主性を尊重する教育、教育環境改善をめざす教職員組合活動にとりくみ、平和をまもる地域の運動にも参加。社会をよくする理想に燃えて生きてきました。

長く教育現場にいた経験を活かし、子どもの人権が尊重され、子どもの笑顔があふれる教育環境をつくるため、教職員の多忙化を解消し、労働環境を改善します。鈴木えつお議員の活動を引き継ぎ、市民の暮らしを守る取り組みに全力をあげます。

憲法9条を生かし軍事優先でなく、教育・医療・福祉を優先する政治への転換を目指しがんばります。

荒木てつ(あらき 徹)

1962年東京都生まれ。3歳の時に猪方へ。いずみ幼稚園、三小・二中、桐蔭学園高校で学ぶ。東京理科大学大学院卒。都内私立学校に数学教師として33年勤務。職場で教職員組合を結成、委員長をつとめる。「平和憲法を広める狛江連絡会」世話人。家族は妻と長女。趣味はカブトムシの飼育、バードウォッチング。狛江探鳥会会員。

鈴木えつお議員は勇退

後継者の荒木てつさんの勝利へ、がんばります。

岡村しん(おかむら 伸)

1978年東京都生まれ。狛江三小、二中、農大一高、青山学院大学卒。診療所事務主任、北多摩中央医療生協労働組合委員長を経て、2011年市議初当選。社会常任委員長等を歴任。現在、建設環境常任委員長、議会報編集委員会副委員長。岩戸親睦会会員、狛江三小おやじの会会員。家族は妻と2男。

宮坂良子(みやさか よしこ)

1950年新潟県生まれ。2007年市議初当選。4期目。渋谷代官山郵便局勤務、新日本婦人の会中央委員、狛江市立旧四小・三中PTA学級委員、市議会副議長、社会常任委員長、総務文教副委員長歴任。現在社会常任副委員長。家族は夫と長女。

西村あつ子(にしむら 敦子)

1966年東京都生まれ。こだま幼稚園、旧四小・旧八小、三中、都立高校卒業後、電気会社、デザイン会社を経て1999年から狛江市議(6期)。狛江市議で初めて在職中に子どもを出産。現在、議会運営委員会副委員長、総務文教常任委員、多摩川衛生組合議会議員。市議会副議長、保育園父母の会役員歴任。

重国たけし(しげくに 毅)

1970年山口県生まれ。埼玉大学工学部環境化学工学科卒。「しんぶん赤旗」記者のち、地方政治の専門雑誌「議会」と自治体編集部勤務24年。「市民センター」を考える市民の会世話人。狛江市「こみ半減推進審議会」、人権尊重推進基本条例検討委員会、推進会議で市民公募委員をつとめた。趣味は自然散策と溪流釣り、高校時代に登山部で中国大会優勝。

5人の活動地域は裏面で紹介

市民生活第一・市民が主人公の市政へ

5人全員を市政の場へ どうかお力をお貸してください

日本共産党

2023年4月・狛江市議選 5人の主な活動地域



10期40年で勇退・鈴木えつお議員と、昨年都議選に挑戦した田中とも子前議員の議席を引き継ぐために、16年ぶりに新人2人を擁立してたたかいます。